

平成17年4月28日

平成16年度「教育研究支援プロジェクト経費」成果報告書

プロジェクトチームの代表者 部・講座等名 学校改善講座

氏 名 石村雅雄

プロジェクトの名称	「同僚による大学授業参観」システムの構築	配 分 予算額	995,000 円
プロジェクトの概要	従来の本学のFD活動（種々の研究会、自己評価、授業検討会、授業公開週間等）をみただけでも、本学には自らの授業改善に個人的・部分的に取り組んでいる教員が少なくない。しかし、その努力は、日常の忙しさによりなかなか集団的な取り組み、とりわけ部を越えた、全学的な取り組みとならないのが現実である。 本プロジェクト参加者は、2002年以来、個人的な取り組みによって10の授業参観を行い、教授者の先生方と該当の授業について語り合う中で以上の現状を把握し、いくつかの本学の授業改善についての知見を、教授者の先生方とともに得ることができた。この中で、自らの授業改善にあたって同じ問題を考えている教員の存在や、優れた授業の工夫が随所に見られ、これを共有するシステムの必要性を痛切に感じた。 以上の知見は、正に、大学教育の実践の経験の中から得た教育課題であり、本学が、教員の養成・研修を重要な任務とすることを考えた場合、自らのあしもの教育を改善せずして、広く我が国の学校教育の改善は成し得ない、との自覚のもと、また、大学での実践と自らが説く教育理論の一体化の問題としても、早急に解決すべき課題である。 本プロジェクトは以上から、大学授業改善の工夫・知恵の全学的共有、お互いに授業を「見、見られる」関係を通した本学教員教育共同体の再生、を目的として研究・実践を遂行した。		
成果の概要	1 本研究参加者による授業の自省 本研究参加者の該当の授業を諸機材（デジタルビデオカメラ等）によって記録し、自省を図った。 2 自省結果の返し この結果を文書化し、後述する授業参観H.P.に入れていく工夫を行う。 3 授業研究会の実施 ある程度自省の実績が積めたところで授業についての研究会を行い、「互いの授業を見、見られる教育共同体」の創出や、本学の学生の教育意欲喚起に向けた実践的、理論的総括を行った。この中では、互いの授業間の違いに関する相互理解（教員はどこまで学生の自主的な学びに入っていっているのか、学生を「しかる」ことの方法について、学生の授業中の理解はどこまで、どの程度を目処としてすすめるのか、自らの授業と他の授業との連携や学生への負荷の問題）が交換された。 4 授業参観H.P.の立ち上げ 本学の同僚に公開して構わない＝議論したい授業の情報交換の場の提供と、これまでの本学の授業改善の工夫（例えば、グレード制、対話的授業等）に関しての双方向的掲示板の搭載、及び、INQAAHE（International Network for Quality Assurance Agencies in Higher Education）等に紹介されている各国の授業改善の工夫の紹介を目指してH.P.の試作版を作成した。 5 プロジェクトについての成果公開・意見交換 INQAAHEの2005年度総会で報告する予定でエントリーを行ったが、残念ながら採用に至らなかった。但し、本プロジェクトについては、学外からの注目が多く、各地の大学教育研究者から本H.P.開設についての有益な意見を得ることができた。学生からのアクセスの有用さや、それへの応答の仕方の工夫、H.P.管理に関する外部からの侵入についての問題（H.P.を日常的に「見ておく」ものの必要性）である。		